④色彩　［a．主張しない基調色の選定］

■指針

施設の基調となる色については、周辺の景観に対して、主張しすぎないような色彩の選定に努める

■指針のねらい

・施設の基調となる色は、比較的広い面積を占めますが、こうしたところは、彩度を抑えるなど、周辺になじむ色彩の選定が望まれます。

・彩度の高い色彩や、人工的な色彩など（金、銀、蛍光色など）を基調色に使用すると、自然景観地にはなじみにくいほか、見るものに強い印象を与えます。

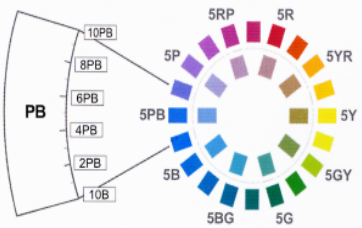
・それぞれの施設が使用する色彩において、色あい（色相）や色調（トーン）を統一、または類似したものとすることによって、主張しすぎず、まとまったまちなみの印象を与えることができます。

●色の表示方法　－マンセルシステム－

色を伝達する方法として、記号を用いると、簡便で正確に色を伝えたり記録することができます。その一つとして、マンセルシステムがあります。マンセルシステムは、JIS として定められ、また、海外でも用いられています。

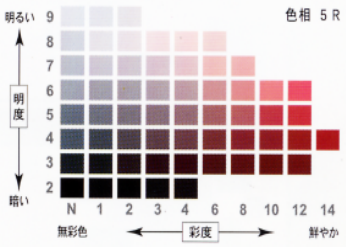
構成：色相・明度・彩度の色の三属性により構成されています。

色相：赤み、青みなどの色あいを示しています。色相の記号は、赤・黄・緑・青・紫をそれぞれR・Y・G・B・Pで表し、その中間の色相はYR・GY・BG・PB・RPとなります。これが基本10色相になり、さらに各色相を10等分して、記号の前に1～10の記号をつけて表します。全部で100色相が基本的な構成となります。

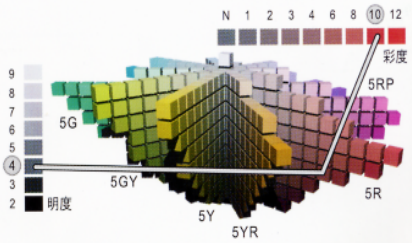


明度：明るさの度合いを示します。反射率0%の理想的な黒を0、反射率100%の理想的な白を10とし、その間を等歩度に分割し、10進法の尺度で表します。実際に色票化が可能なのは、1.0～9.5の範囲です。

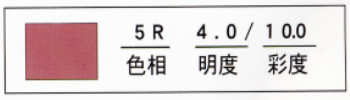
彩度：鮮やかさの度合いを示しています。色みを持たない無彩色を0とし、数値が大きくなるほど鮮やかになります。



色立体：三属性の尺度軸を立体的に組織化したもので、物体の表面色であれば、すべての色をこの中に配置することができます。

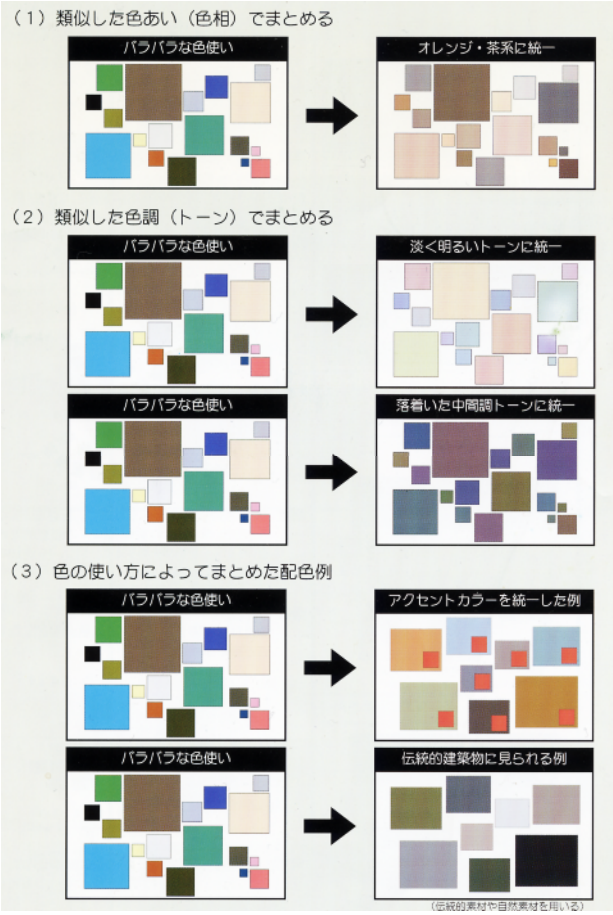


色の表示法：下記のように、記号によって特定の色を表すことができます。



●色彩調和の考え方

色の明暗や濃淡は異なっていても、色あいに共通性があれば全体としてまとまりやすい等、組み合わせる色どうしに類似した色（色あい、色調）を用いることによって、全体の印象をまとめることができる。（「とちぎのカラーガイド」より）



３ 要素別指針

③色彩　［ｂ．歴史、文化に配慮した色彩］

■指針

地域固有の歴史及び文化を魅力的に伝える色彩の活用に努める

■指針のねらい

・本県の景観の特徴には、自然豊かな山並み、原風景を伝える田園の広がり、にぎわいのある市街地のまちなみなど、地域それぞれに特色を持っていることから、これに応じた色彩を考えていくことが望まれます。

・伝統的な地域に伝わる色彩がある場合は、魅力的な景観づくりの中で生かしていくことも考えられます。

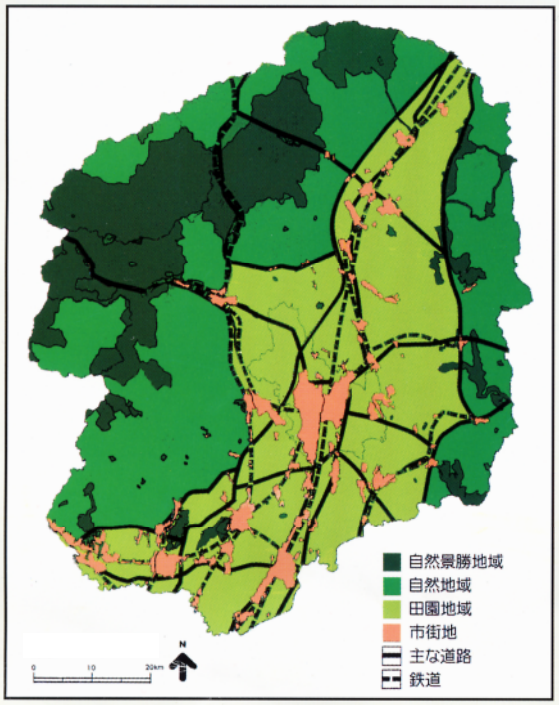
・四季の変化や人々の暮らし、祭り、イベントなどが美しく感じられる景観づくりを考え、色彩計画に生かしていくことが望まれます。

●県土景観の特徴

「とちぎのカラーガイド」では、県土景観を次のように類型化し、これに応じた色彩活用の考え方を示している。

- 自然景観
  - 自然景勝地域
    - ・自然景勝地、国立、県立自然公園など
    - ・自然の緑が基調となる景観
  - 自然地域
    - ・山地山麓部、一部観光リゾート地
    - ・自然の緑の中に集落や観光地などが点在する景観
- 都市景観
  - 山麓－田園地域
    - ・山麓近くの農地や集落などの田園部（主に県北）
    - ・身近な山麓を背景に屋敷林が点在する景観
  - 平地－田園地域
    - ・平地部の農地や集落などの田園部（主に県南）
    - ・開放的で明るい、広がりある景観
  - 市街地
    - ・主にまちなか（商店街や住宅地）
    - ・山並みや屋敷林を背景に街並みが展開する景観

●県土の色彩を考えるベースになるゾーニングと、各地域における色彩の考え方



地　域		考え方
自然景勝地域		・現在の景勝地の印象を変えない方向 ・自然と融和する色彩の選定
自 然 地 域		・山地山麓の印象を損なわない方向 ・自然と融和する色彩の選定
田園地域	山麓	・落着いた雰囲気を保っていく方向 ・山麓や屋敷林の背景に調和する色彩の選定
	平地	・開放的で明るい雰囲気を支えていく方向 ・平地部に拡がる農地を背景にして、調和する色彩の選定
市 街 地		・それぞれの地域（場）に馴染ませていく方向 ・背景となる自然や田園に対して調和し、映える色彩の選定

*）上のゾーニング図は、建築物や土木構造物、ストリートファニチュアを始めとした人工構造物の色を考えていくにあたって、どの地域に該当しているのかをおおまかに判断するためのものです。

③色彩　［c．アクセント色の活用］

■指針

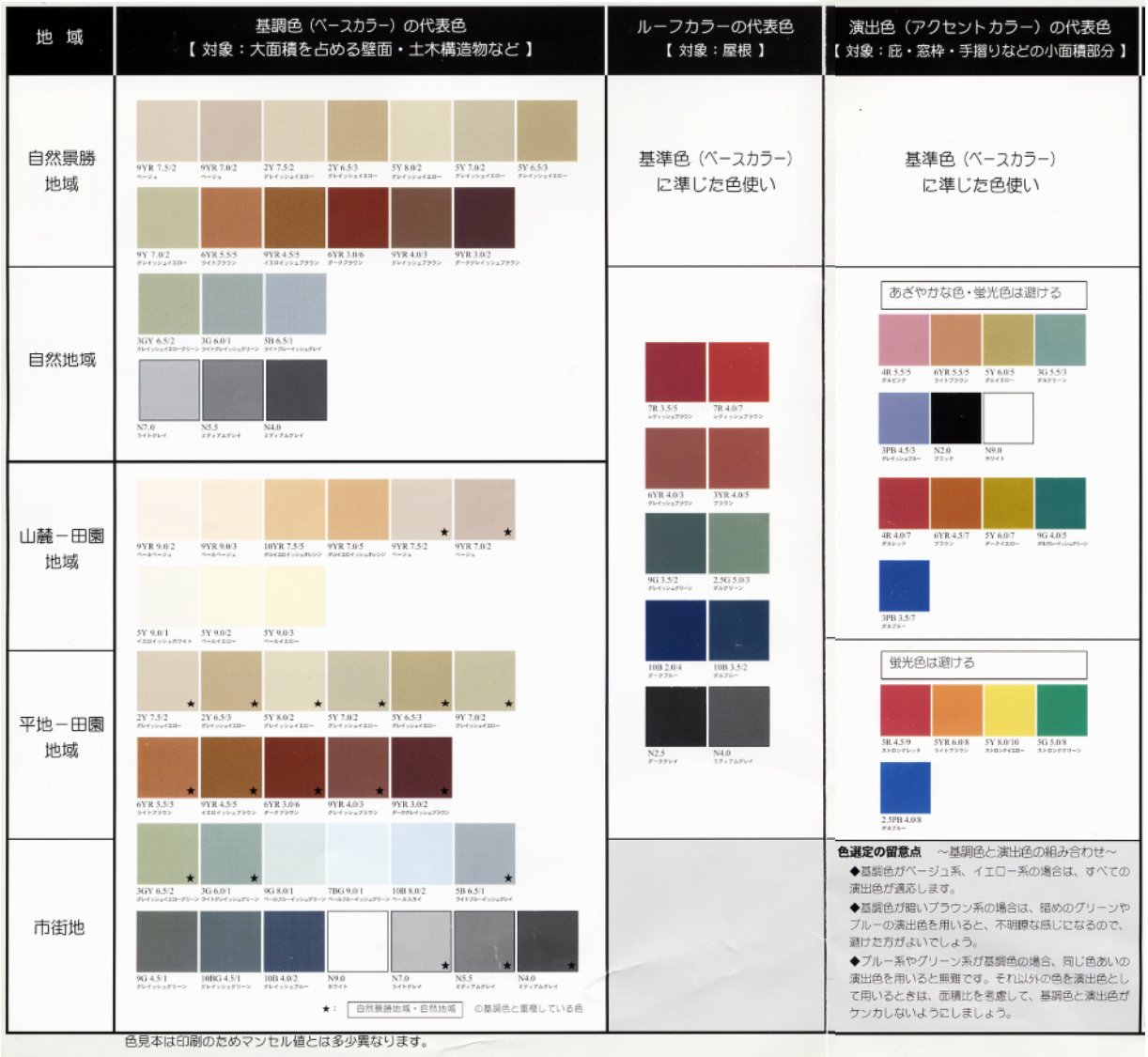
アクセント色を導入する場合は、基調色に調和して使用し、施設の個性や魅力を生かすような工夫に努める

■指針のねらい

・色彩の使い方には、周辺にとけ込むような場合と、周辺とのコントラストを生かす場合が考えられます。

・施設の個性や魅力を生かすため、適度な変化やリズムをつくる、アクセント色の導入も考えられます。

●基調色とアクセントカラーの色彩指針



３　要素別指針

④材料　［ａ．自然になじむ材料の活用］

■指針

自然景観地にあっては、自然の景観に調和する材料の活用に努める

■指針のねらい

・自然景観地においては、自然の風合いに不調和な、光沢のある材料の使用は慎重に行い、木や石、布、紙といった、自然素材の活用を工夫することなどによって、背景との違和感を避けるよう努めることが望まれます。

■景観形成事例

石造りの教会の外装も、永い歴史を刻んできた中で自然に溶け込み、味わいを醸している。（日光市）

●一般的な外装素材の特徴

素材の種類	長所	短所
木材	・自然環境に調和しやすい ・伝統的素材である ・暖かみを感じさせる	・比較的維持、管理が難しい
石材	・自然環境に調和しやすい ・重厚感がある ・耐久性に富む	・加工が難しい ・比較的コストがかかる
瓦、レンガなど	・自然環境に調和しやすい ・伝統的素材である ・重厚感がある ・耐久性に富む	・使用範囲が限定される
タイル	・自然環境に調和するものもある ・種類が豊富で変化に富む	・使用範囲が限定される
吹付材	・施工が比較的容易である ・種類が豊富で入手しやすい	・単調になりやすい ・重厚感に乏しい
金属	・材質が一定で加工しやすい ・シャープさ、モダンさを感じさせる ・耐久性に富む	・自然環境になじみにくい ・温かみに欠ける
ガラス・ミラー	・シャープさ、モダンさを感じさせる	・自然環境になじみにくい ・温かみに欠ける

④材料　［b．味わいの出る材料の活用］

■指針

経年変化により、風格の増す材料の活用に努める

■指針のねらい

・時間の経過につれて味わいの出てくる（エイジング）ような、材料（主に、木や石、レンガなどの自然素材）の積極的な活用を検討することが望まれます。

■景観形成事例

温もりの感じられる舗装材と、沿道の歴史的な建物が調和している。（栃木市）

隣接する橋の意匠、素材を取り込んだ、石造りの便所が、重厚さを醸している。（宇都宮市）

石材の使用により、親水護岸が自然にとけ込んでいる。（塩原町）

３　要素別指針

④材料　［ｃ．地場産材の活用］

■指針

地場産材等その地域で産出した材料が使用可能な場合にあっては、その効果的な活用に努める

■指針のねらい

・地域特有の材料や産業がある場合、その材料や技術の積極的な活用を検討することが望まれます。

■景観形成事例

地元産八溝杉のルーバーが建物の表情をつくっている。（馬頭町）

大谷石を外装材に活用した、公園内の便所。（宇都宮市）

林業の町として知られる地域にふさわしく、便所・バスの待合いに木材を活用している。（粟野町）

⑤敷地の緑化　［a．既存樹木等の保存、活用］

■指針

事業地内に良好な緑地及び歴史的な巨樹、古木等がある場合は、保存、移植等に努める

■指針のねらい

・地域住民に親しまれている緑や樹木、あるいは巨樹、古木等は、できる限り保存に努めることが望まれます。

・保存が難しい場合にあっても、良好な状態を保って移植を図ったり、それに代わる植栽を行うなど、記憶の継承に努めることが望まれます。

■景観形成事例

日光街道の杉並木は、車が通る現代においても歴史性を偲ばせ、大切に保存されている。（今市市）

背景となる周辺の緑を借景として生かし、公園内の緑と調和させている。（宇都宮市）

集落景観のポイントとなっている屋敷林の大樹を、町の名木に指定している。（上三川町）

３　要素別指針

⑤敷地の緑化　［ｂ．植栽生育基盤の配慮］

■指針

新たに植栽する場合は、生育に十分な基盤を整備し、周辺の樹木及び植生との調和に努める

■指針のねらい

・植栽の生育上の措置を欠くことにより周辺の自然植生との不調和が生じないよう、注意が必要です。特に、人工地盤上や屋上緑化、街路樹などにおいては、十分な配慮が望まれます。

■景観形成事例

人工地盤上においても、中低木の生育に十分な植栽基盤を整備している。（宇都宮市）

銅山の失われた緑を回復するため、町民らによる体験植樹によって植えられた緑。（足尾町）

幼苗植栽による並木を、十分な生育基盤とともに整備している。（河内町）

⑤敷地の緑化　［c．季節感の演出］

■指針

花木、草花等により、季節感の演出を行うように努める

■指針のねらい

・公園や緑道、広場など多くの人の集まる場所では、花木や実のなる木等のほか、草花を植えるなどによって、季節が感じられ、親しみやすい演出を図ることも考えられます。

・自然植生との調和や維持管理などについての配慮も合わせて行うことも重要です。

■景観形成事例

道路沿いのせせらぎには、ハナショウブ等の草花が植えられ、身近に季節感を感じることができる。（真岡市）

植栽帯には、四季折々の花木が植えられている。（小山市）

色とりどりの草花が、季節感を演出し、来街者の目を楽しませている。（茂木町）

３ 要素別指針

⑤敷地の緑化　［ｄ．樹種の選定］

■指針

地域の植生及び周囲の自然に調和する魅力的な緑化に努める

■指針のねらい

・基本的には、地域固有の自然植生に応じた樹種の選定を行うことが望まれます。

・必要があって外来樹種などを植栽する場合にあっても、周辺の自然との調和に十分配慮を行うことが望まれます。

■景観形成事例

イチョウの古木が残ることから、沿道の街路樹をイチョウとし、地域性を伝えている。（宇都宮市）

●樹種選定の指標

緑化のための樹種選定にあたっては、緑化する場の環境と樹種の特徴との関係を意識しつつ、その環境で十分生育する樹種を第一に選定することが望まれる。

一般に、次のような側面を樹種選定の指標として、その環境に対する緑化樹種の選定が行われる。

樹種の性状	樹高	高木、中木、低木、地被
	枝張り	―
	常緑、落葉、半落葉	―
	樹形	球形、卵形、倒卵形、円錐形、長形、尖形、扁形、松形、竹形、地覆形、頂形、草状、蔓性、枝垂性、等
	根系	深根性、浅根性
特徴	紅葉	紅葉、黄葉、褐葉
	幹	色、肌合、斑紋
	葉	形、色
	花	大きさ、形、色、香り
	緑量感	―
属性	生育速度	速、遅
	遷移的特性	寿命の長短、繁茂する　等
	病害虫の有無	他植物への影響も含む
耐性	天候に関するもの	耐候性、耐雪性、耐風性　等
	環境に関するもの	耐陰性、耐乾性、耐湿性、耐煙性
	人為に関するもの	耐移植性
市場性	樹種による価格	―